



個別検査

子宮頸がん検診



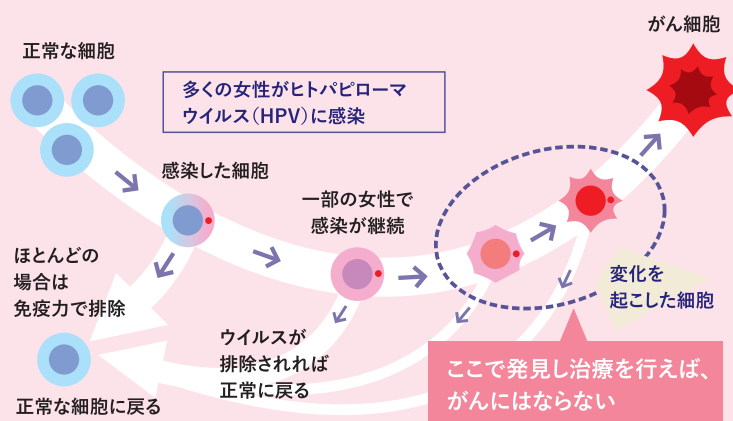
「前がん病変」状態を発見し、 「子宮頸がん」を予防

子宮頸がんは、発がん性のHPV(ヒトパピローマウイルス)の感染によって起こる病気です。ウイルスに感染するとその多くは自己免疫力によって排除されますが、感染が持続すると、一部では異形成という「前がん状態」を経て、数年後に子宮頸がんを発症します。子宮頸部細胞診では、細胞診によりがんに進行する前に異常を発見し、子宮頸がんを予防します。



初めて受診を
検討される方は、
こちらをご覧ください。

正常な細胞が子宮頸がんになるまで



20歳を過ぎたら

定期的子宮頸がん検診を

子宮頸がんの罹患率、死亡率は20～30歳代の若い女性で年々増えています。若年から、定期的に検診を受けましょう。

子宮頸がん予防ワクチンも お勧めします

主にハイリスク型のHPV感染を予防できます。ただし、HPVには150種類の型があり、ワクチンで全ての型の感染を防ぐことはできないため、ワクチン接種後も定期的な検診をお勧めします。当院では、ワクチン接種も行っていますので、ご希望の方はお問合せください。

こんな方にお勧めします

- 20歳以上の方
- 性交渉の経験がある方
- 不正出血(生理以外の出血)がある方
- 前回の検査から2年以上たっている方
- 子宮頸がんワクチンを受けていない方
- 喫煙の習慣がある方

検査内容

● 視診

腔鏡という金属の器械を入れて、腔壁や子宮口に異常がないか観察します。

● 子宮頸部細胞診

子宮の入り口(子宮頸部)表面の細胞を取り顕微鏡で調べます。ほとんど痛みはなく、短時間で行います。

ブラシで頸部の細胞をこすり取る



● 内診

子宮の大きさや可動性の良否、卵巣の腫れがないか確認します。

● HPVウイルス検査(オプション)

子宮の大きさハイリスク型のHPV感染の有無を検査します。HPVの持続感染状態を発見し経過観察することで、「前がん病変」状態を逃すことなく早期治療が可能です。
※当センターでは、子宮頸がん検診時にHPVウイルス検査を同時に行えます。

● 経膈超音波検査(オプション)

本検査を併用することにより子宮、卵巣に異常がないかをより詳細に確認できます。